（1）　主題名　理想の実現　〔中学校　1－（4）〕　　関連項目　〔1－（5）〕
（2）　ねらい　真理を愛し，生きがいを求め，張りのある生活をしていこうとする意欲と態度を育てる。
（3）　資料名　「駅伝日本一　運命のたすきをつなげ」　（出典：NHK「プロジェクトX」より）

資料の概要
　兵庫県西脇市に，高校駅伝最強のチーム「西脇工業高校」がある。全国優勝すること，史上最多の８回。しかし，西脇工業は，かつて荒れた時代があった。そして，一人の教師がそこに飛び込み，生徒と向き合いはじめた。彼は陸上競技を通して生徒の心を変えていったのである。その生徒の一人，中学時代「ごんたくれ」だった藤井は，高校で全国大会予選の第１区で一番になるまでに成長する。

（4）　学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　西脇工業高校について知る。	○西脇工業高校って知っていますか。 ・知らない ・陸上の強い高校	○西脇工業高校について補足説明をする。 （全国大会優勝８回・就職率 100％・かつて荒れていた　等）
展開	2　ビデオを視聴して，藤井について考える。 3　藤井が１区を走り終えた時の思いを，班で話し合い，発表する。	○荒れていた西脇工業の陸上部で，どんな生徒がどうなっていったのかを視聴しよう。 ・どんな生徒がいるのだろう ○西脇工業陸上部にはどんな生徒がいましたか。 ・林　・塚本　・藤井　・藤本 ○藤井が中学時代，2000m走でいつも棄権を繰り返していたのはどうしてですか。 ・ビリになるのが怖かったから ○藤井は，どうしてビリが怖かったのだろうか。 ・周囲にどう思われるか気になったから ・自分の弱さを見せたくなかったから ○「ごんたくれ」の藤井が高校に入って，4000ｍを走り終えて感じたことは何だろう。 ・できた喜び　・充実感　・自信 ◎中学時代「ごんたくれ」で，2000mさえ満足に走らなかった藤井が，全国大会予選で10ｋｍもの１区を一番で走りきって，次のランナーにたすきを渡したとき，何を思っただろうか。 ・陸上を続けてきてよかった ・やればできるんだ	○渡辺監督のもと，西脇工業陸上部が実質的な活動を始め，全国大会予選で優勝するまでの場面（約13分）を視聴する。 ○藤井という生徒を中心に，その変容を考えさせる。 ○藤井の心の内にある弱さをとらえさせる。 ○やりきったときの喜び・充実感を感じ取らせる。 ○藤井の変化について理解させる。
終末	4　人生の上で大切なことは何かを考えながら感想を書く。	○人生の上で（生きていく上で）大切なことは何だろうか。学習して感じたことを「道徳ノート」に書こう。 ・何かに打ち込むことは大切である・・・	○答えは求めず，問いかけて余韻を残しつつ感想を書かせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本教材は「ＮＨＫプロジェクトＸ『駅伝日本一　運命のたすきをつなげ』」の一部を活用した。読み物教材の苦手な生徒や読み取りのできにくい生徒などにとっては，視聴覚教材は取り取りかかりやすいものである。このビデオの全てを視聴するのではなく，「ごんたくれ（悪）」の藤井という生徒に焦点を当てて，生徒に見せた。中学校時代から投げやりで教師に反抗してばかりいた藤井が，高校で陸上に打ち込むようになって，できる喜び・充実感，自信を身に付けて全国大会予選で１０ｋｍもの１区を一番で走りきり，チームが初優勝した場面である。悪だった藤井に自分自身をだぶらせる生徒もいるのではないかと考え，藤井の姿を通して，やればできることや人間の可能性ということ等を学ばせたいと考えた。

２　指導過程の工夫

読み物教材の苦手な生徒のために，視聴覚教材を活用した。「ごんたくれ」の藤井の姿を追っていくことによって，彼の変化の様子，その原因を考えさせるようにした。また，その時々の彼の気持ちをとらえることで，続けることの大切さ・やればできるという充実感等を感じ取らせるようにした。その上で，生きていくのに重要なこととは何かを考えさせたいと思った。

３　発問の工夫

視聴覚教材を活用し，「ごんたくれ」の藤井の姿を追いながら，中学時代の藤井，高校に入ってからの藤井の様子をとらえていった。そして，「中学校時代『ごんたくれ』で，２０００ｍさえ満足に走らなかった藤井が，全国大会予選で１０ｋｍもの１区を一番で走りきって，次のランナーにたすきを渡したとき，何を思ったか」という中心発問にもっていった。それを考えることによって，生きる上での大切なものは何かを感じ取らせるようにした。

４　生徒の反応

視聴覚教材ということもあって，生徒たちは積極的に見入っていた。また，藤井の気持ちに対しても的確にとらえた意見が多く，例えば，中学時代の藤井に対しては「プライドが傷つくため自分から逃げていた」等，高校時代に対しては「自信・達成感を持った」等である。授業後の感想も，「自分から行動することが大切だと思った」とか「自分ももっとがんばらなくてはと思った」といった前向きなものが多く，自分のこととしてとらえていた。さらに，藤井の変化だけでなく，周囲の支え・仲間の温かさへも思いを巡らせた生徒もいた。

５　授業後のフォローアップ

生徒のその後の生活態度をしっかり見ていく。特に，今までいい加減な行動をとっていた生徒がどう感じ，これからの生活にどう反映させていくかを見つめていく必要がある。部活動への取組み方にも注意を注いでいく。また，本教材は３年生に実施したこともあって，今後の進路学習とも結びつけて考えていきたい。

（豊栄中学校）